

法学部図書室の紹介

「社会あるところ、法あり」法学の蓄積と発展に貢献する図書室

法学部図書室は、京都帝国大学法科大学が明治32年(1899)9月に創立して以来、法学・政治学関係資料の収集・提供を通して、研究・教育に貢献してきた歴史の長い図書室です。大正8(1919)年の経済学部分離の経過もあるものの、現在約65万冊(和書28万冊、洋書37万冊)を所蔵し、特に京都の地が地震や戦争による災禍をまぬがれてきただけに第二次世界大戦以前の法学・政治学関係の資料は東洋一ともいわれています。

法学・政治学関係資料のみならず、関連分野である哲学や歴史学等の資料も所蔵しています。また、貴重書指定の文庫群の資料的価値は「特殊コレクション巡り 法学部」『静脩23(1)1986.10』で解説済みです。

しかし、良質な資料群を収蔵している書庫は狭溢化しており、職員が頻りに資料を移動させてしのいでいる状態です。書庫棟の新設が必要なというまでもないのですが、予算がつかず不可能なのが現実です。施設の面では恵まれた状況にあるとはいえません。

閲覧室

図書室に入ってすぐ目に付くのは、目録カードボックスです。遡及入力には常に行っているものの、KULINEで検索できるのは全体の35%程度に過ぎません。(2007年3月末現在)古い資料を探す場合は、目録カードの検索が必須です。

初心の利用者が「図書室はこれだけ」と思っている開架コーナーには、南から順に「公共政策図書」「基本的な法学雑誌」「日本の判例集」「基本的な図書」「参考図書」を配架しています。これらは概ね法学部学生が必要と



<入口近くで存在を主張するカードボックスたち>

する資料です。開架コーナーの資料はすべて当日貸出のみです。不便に思われるかもしれませんが、結果として開架コーナー資料はほぼ常に図書室に在る状態になっているのです。

蔵書検索性PCでは、KULINEのほか「判例体系」、総務省「法令データ検索システム」、裁判所「判例検索システム」、「GeNii(含む



<開架コーナーの日本の判例集と開架基本図書>

CiNii)」、「NDL-OPAC」等が利用できます。

また、開架コーナーの閲覧机に8口の情報コンセント(うち1口には接続用PCを設置)を備え付けました。ご自分のPCを持ち込んで接続後、本学教育用システムのIDとパスワードによる認証を経て、インターネットにつながる環境となっています。



<手前が情報コンセントを備え付けた閲覧机>

書庫

開架コーナーからは奥に雑誌室が見えますが、雑誌室及びその奥の書庫には本学学部学生や学外の方は入ることができません。本学所属の教職員及び大学院生に相当する方、検索許可を受けた本学法学部学生は入庫できます。

雑誌室には、製本前の雑誌が配架されています。製本後の洋雑誌は2層に、和雑誌は地下2層に配架されます。但し、判例集は2層または地下1層に配架されます。

法経北館の北部にそびえる地下2層 - 地上7層の建物が書庫棟です。なお、書庫は経済学部図書室と共用しています。当然ではありませんが、法学部の資料は法学部図書室のカウンターで、経済学部の資料は経済学部図書室のカウンターでしか貸出等の手続きができません

るのでご注意ください。

2層奥の日本の判例・法令・議会資料、2層及び地下1層の各国判例・法令・議会資料、地下1層の中国語・ハングル図書、漢籍、7層の戦前洋書等は知る人ぞ知るエリアとなっています。また、英国議会資料やフランス官報や国連公式文書のマイクロ資料も所蔵しています。



<書庫内の風景>

平成16(2004)年度から法科大学院が、平成18(2006)年度からは公共政策大学院が発足し、法学部図書室のサービス対象者のニーズは更に多様化しました。それらに因るため、法学部図書室は教員と協力しつつ、資料収集を行っています。

(法学研究科閲覧掛)

| | | |
|-------------|-----|--------------------------------------|
| | 7層 | 戦前洋書(分類 A、C、E) |
| | 6層 | 戦後洋書 |
| | 5層 | (経済学部書庫) |
| | 4層 | (経済学部書庫) |
| | 3層 | 和書 |
| | 2層 | 戦後洋雑誌、加除(和書・洋書) 法令集・判例集・議会資料(日・米) |
| | 1層 | (経済学部書庫) 法令集・判例集・議会資料(英・仏・独・伊他) |
| (経済学部書庫と共用) | B1層 | 国連・国際法関係資料、漢籍、中・ハングル図書 |
| (経済学部書庫と共用) | B2層 | 和雑誌、戦前洋雑誌 中・ハングル雑誌、新聞縮刷版 |

<書庫配置図>